

1学期中に図書委員会が企画した各種イベントにご参加くださった皆さん、もしくは図書館ライブの出演者としてご協力くださった皆さん、改めてありがとうございました。それぞれについて、9月発行予定の館報『図書』でもイベントの内容等を報告予定ですが、ここで6月16日(木)に開催され、大成功を収めた第1回読書会の様子を詳しくレポートします。

【あなたもショートショート の神様になっちゃおう！！】

第1回読書会は、ショートショートの神様として知られる星新一の『未来いそっぷ』を手本として、誰もが知る“うさぎとカメ”の物語を、参加者が各自オリジナルのショートショートに作り替える(友達と一緒にオリジナルストーリーを創作する)という内容で開催しました。

条件はただ一つ、星新一が自らの作品に書き添えた教訓「知恵と金さえあれば恐るるものなし。肉体的な欠点など、何ら気にすることは無い。」に沿ったストーリーにすることでした。参加者17人が知恵を絞ること、約20分・・・予想を超える素晴らしい作品が、次々に披露されました。その中から2作を紹介します。皆さんもぜひ一読してお楽しみください。

読書会は9月以降にも新しい企画で開催予定です。多くの皆さんのご参加お待ちしております！！



作品1：スーパーマリオの甲羅アタック編

「もしもしカメよ、カメさんよ。世界のうちでお前ほど歩みののろいものはない。全く情けない奴だな」

うさぎが今日もカメにこう言った。

「なんだと？そんなことを言うやつはこうだ！」

言われたカメはもう我慢ならない。カメはうさぎに人気ゲーム・スーパーマリオ顔負けの甲羅アタックを食らわせる。うさぎは前足と後ろ足を怪我してしまった。

「いつもバカにされていたお返しだ！悔しかったら、その状態で俺と競争して勝ってみな！あの太陽がてっぺんに登るまでに、あの丘の頂上に先に着いた方が勝ちだ」

スタートして数時間が経ち、タイムリミットが迫る中、うさぎは足を引きずりながら丘に登るものの、カメは自分より先を行っているため、その姿はもう見えない。かなりの差をつけられている。そこでうさぎは考えて、丘の途中に住んでいるキツネの家を訪ねた。

「キツネさん、今私とカメのどちらが先に、この丘のてっぺんに行けるかという勝負をしているのだが、今私は足を怪我していて、とても勝てる状況じゃない。1000円払うから、あなたの自慢のバイクに私を乗せて、一気に丘のてっぺんまで運んでほくれないか？」

うさぎの依頼にキツネはこう言った。

「いいだろう。ただ、代金はそれだけじゃ足りねえな。頂上に行ったら加えて報酬をよこせよ。」

うさぎは「わかった、それで頼むよ」と答えた。

真昼まであと30分ほどの頃、カメはあと少しでゴールというところまでできていた。「やっとなのうさぎの野郎に勝てる！」そう思った時、「やあ、カメさん！お先に失礼するぜ！」

と言いながら、キツネのバイクに乗ったうさぎが、一瞬にしてカメを追い抜いていってしまった。「そんなことがあっていいのか、いや、あってはならない！」とカメは大変悔しがった。

カメより先に頂上についたうさぎは、してやったりの満足顔。上機嫌のまま、キツネに尋ねた。

「ありがとう。さあ、約束の1000円だ。ところで追加の代金は何だ？」

キツネはうさぎにこう返した。

「大丈夫だ。ここにちょうど俺の大好き物があるからな」

作品2：カメは実はお得意様の重役だった！！

接待ゴルフ編

「もしもしカメよ、カメさんよ。世界のうちでお前ほど歩みののろいものはない。全く、情けないやつだな」

ある日、うさぎとカメはかけっこをしました。結果はもちろんうさぎの勝ち。足の速いうさぎは足の遅いカメのことをバカにしました。

それから数年後。うさぎとカメはゴルフに出かけました。ゴルフはうさぎの圧倒的勝利でした。うさぎはカメの相変わらずの運動神経のなさをバカにしました。

「もしもしカメよ、カメさんよ。せかいのうちでお前ほどゴルフの下手なものはない。全く、情けないやつだな」

ところが翌日、うさぎは会社で上司に大変叱られました。

「おまえ、接待ゴルフで本気を出してどうするんだ！」

実はカメは数年の間に会社を立ち上げて大成功。そしてカメの会社は、うさぎが勤める会社のお得意先だったので



～参加者の感想より～

○ただ読むだけでなく、ワークショップも踏まえてという斬新なアイデアから生まれた読書会で、とても楽しかったです。読書の楽しさを教えてくれるような、そんな素敵なイベントでした。

○自分の好きな星新一の作品が取り上げられていて、とても楽しむことができました。実際にストーリーを考えてみて、星新一の凄さを体感できました。また、他の人が作ったストーリーも面白くて、「第二の星新一」感を感じました。特にゴルフの話は星新一感が強くて最高でした。

○人によって物事の捉え方は違い、それを比べるのが面白いと思いました。

○ゆるい雰囲気の大喜利企画で楽しかったです。

○星新一の本何冊か読んだことがあったが今回の本は初めて読んだものだった。誰でも一回は読んだことがある本を使って新しい話にするのは斬新で面白いと感じた。また物語の創作では一人ひとり変わった味の作品にしていたのが面白くて聞いていてとても楽しかった。

○友人と話しながらお話を膨らませていって、なんでも有りの物語ということで親しみやすいテーマだったなと感じました。また、他の参加者の方々の素晴らしい想像力に驚かされました。

○今までこのようなイベントの存在は知っていても、参加したことがなかったのですが、今回参加してみて「昨年参加しておけばよかった」と後悔するほど楽しませていただきました。

○自分はこれまで読書とは無縁の生活を営んでまいりましたが、星新一さんを熱烈に愛している友人に誘っていただいて、今回の読書会参加してみたところ、沢山の方々の面白い創作話を聞いて、読書の世界に一步だけ足を踏み入れることができたように感じました。貴重な夕方時間をどうもありがとうございました。

いよいよ明日から夏休み。どの学年の皆さんもきっと「夏の間アレをしたい、コレをしたい」と思い描くことがたくさんで、“短い”夏休みになると思いますが、学期中、読めないままになっている本をぜひ読んでみませんか。一日10分、生活リズムのどこかに読書を固定してはどうでしょうか。貸し出しは本日中に！！ぜひどうぞ。